

シルバー人材センター協力 里山公園へ整備

竹チップで散策路舗装

三田市が「里山公園」として整備を目指す、同市狭間が丘1の南公園（愛称・ブイブイの森）でこのほど、散策路に竹チップを敷き詰める取り組みが始まった。雨が降っても滑りにくく安全に歩けるだけでなく、竹林の拡大防止にもつながるといふ。（山下 智寛）

狭間が丘・ブイブイの森

同公園は約15畝。コナなどに取り組んでおナラなどの落葉広葉樹り、今年2月に市からが生い茂る一方、竹林 依頼を受けた。が拡大し続けている。

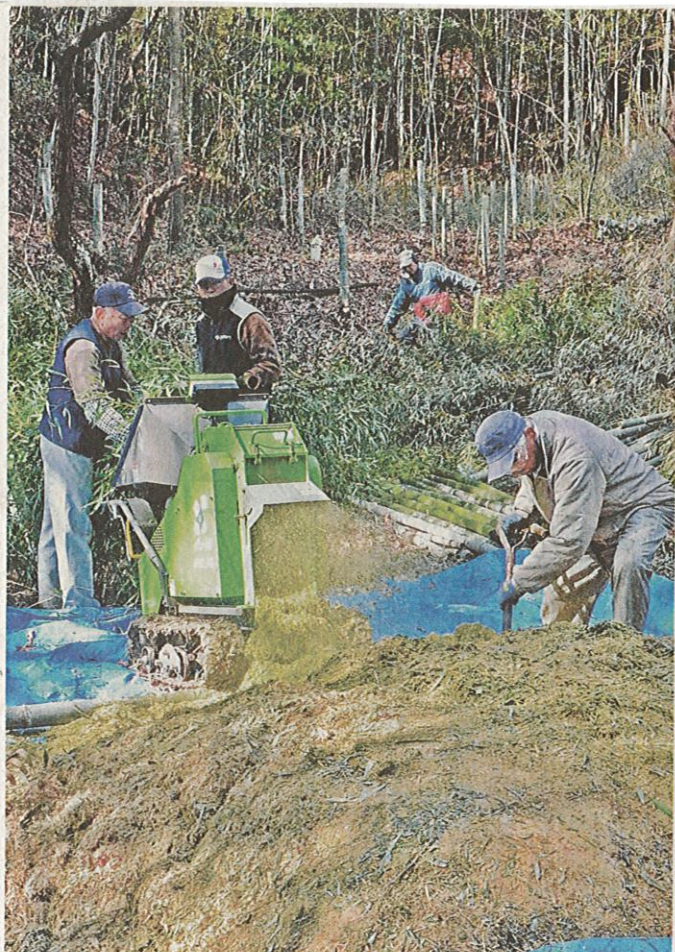
造園業者が園内の竹を伐採。同研究会メンバーが竹を機械で数発の長さに粉碎し、散策路にまく。約800畝（道幅約1・5畝）に竹チップを厚さ5センチ程度まで敷き詰める計画で、約千本の竹が必要という。

このほか、散策路の傾斜のきつい場所には、竹を切って並べた「階段」を施す。

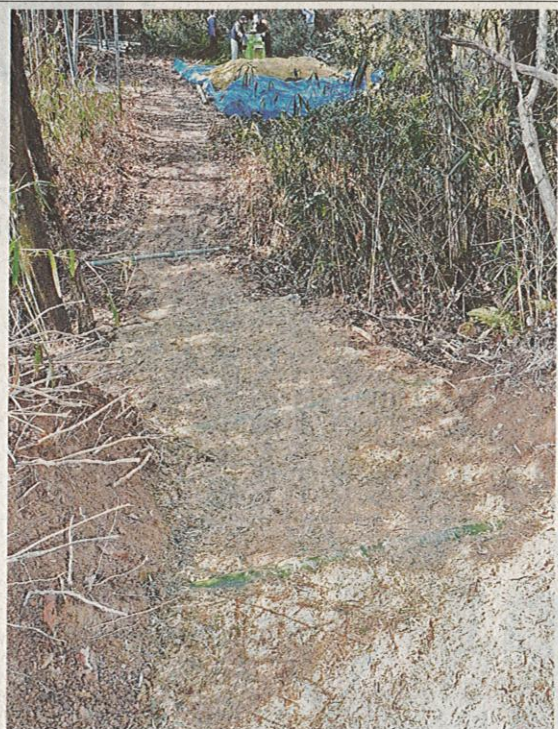
自然に優しく歩きやすく

市公園みどり課によると、散策路整備は3月末までに終了し、今年夏ごろをめぐりに利用を始めるという。

同研究会メンバーの佐藤匡昭さん(73)は「竹の多様な活用方法を広く知ってもらい、市民を巻き込んで里山公園へと整備できれば」と話す。



竹を粉碎してチップにする「シルバー人材センター竹炭研究会」のメンバー＝いずれも三田市狭間が丘1



竹チップが敷き詰められた散策路